

2021年7月6日

IPBES総会第8回会合結果報告会

IPBES総会第8回会合結果概要

環境省自然環境局生物多様性戦略推進室長

中澤 圭一

概要

- 期間：6/14(月)～6/24(木)、平日19:45～0:15（日本時間）
- 設定：オンライン（Interactio/Zoom）
- 参加したメンバー国：80/137カ国
- 主な議題：
 - ◆2019-2030年作業計画の進捗報告
 - ◆財務と予算
 - ◆生物多様性、水、食料と健康の相互関係に関するテーマ別評価（ネクサス評価）スコーピング文書
 - ◆生物多様性損失の間接要因、社会変革の規定要因と2050年生物多様性ビジョン達成に向けた選択肢に関するテーマ別評価（社会変革評価）スコーピング文書
 - ◆生物多様性と気候変動の相互関係とIPCCとの連携
 - ◆能力養成、知識基盤強化と政策支援
 - ◆IPBESの効率化
 - ◆次回総会の日程と開催国

2019-2030年作業計画の進捗報告

- 加盟国政府とステークホルダーのより積極的な作業計画への参画を推奨（特に成果物草案のレビューや専門家のバランスの取れた指名-政策策定や実施に直接の経験のある専門家や関連したアセスメントの過程に参画した専門家を含む）
- 第9回総会において事務局は作業計画の進捗報告を行う



財務と予算

- **これまでの寄付とプレッジ**：2018年約US\$6.3M；2019年約\$7.8M；2020年約\$ 4.4M；2021年約\$ 5.2M；2022年約\$3.2M
- **日本の貢献**：2018年約\$0.19M；2019年約\$ 0.17M；2020年約\$ 0.19M；2021年約\$ 0.19M；2022年約\$ 0.19M
- **民間からの寄付**：ケリング、H&M等
- **予算**：2021年約\$5.7M；2022年約\$9.8M；2023年約\$9.9M
 - ◆新型コロナウイルスの影響のため、2021年予算は総会のオンライン化、各種会合の延期などにより削減。
 - ◆現時点の充足状況：2021年▲約0.5M；2022年▲約4.7M
- **その他**
 - ◆コロナパンデミック下のオンライン会合・作業から、今後のIPBES作業の効率性と効果の改善に向けた教訓の抽出を事務局長に要請
 - ◆民間からの寄付に関するガイドライン：IPBESの活動の独立性担保のため、寄付者のロゴや社名はIPBES報告書には掲載せず、予算報告とIPBESウェブサイトに掲載

生物多様性、水、食料と健康の相互関係に関する テーマ別評価(ネクサス評価)スコーピング文書 《2024-2025年頃発表見込み》

- 地球上の生物多様性、**気候変動・エネルギー、水、食料と健康の相互関係**を分析、50年前から現在までの傾向と2050年頃までの将来予測
- 2050年生物多様性ビジョン、ポスト2020年生物多様性枠組、生物多様性国家戦略、UNFCCC下のパリ協定の長期戦略と国別目標、SDGsに関する意思決定に必要な知識を提供
- チャプタ構成 
- 争点
 - ◆ 気候変動とエネルギーの扱い
 - ◆ IPBESパンデミックWSレポートとIPBES/IPCC合同WSレポートの扱い
 - ◆ トランスフォーマティブ・チェンジ評価との重複回避
 - ◆ 評価対象期間を過去50年間にするのか、産業革命以降の長期間にするのか
 - ◆ Nature-based solutions (NbS)、それともEcosystem-based approach?
 - ◆ 先住民の観点

I.ネクサスの 枠組	1.ネクサスの定義と枠組
	2.生物多様性とネクサスの各要素の関係
	3.3つ以上のネクサス要素の複雑な関係
	4.ネクサス要素の相互関係の将来予測
II.持続可能な将来への 経路	5.持続可能な将来への移行を促す ネクサス横断の政策オプション
	6.淡水
	7.気候変動とエネルギーシステム
	8.食料システム
	9.健康
	10.公共・民間ファイナンス
	11.生物多様性保全、再生と持続可能な利用
	12.知識・技術・能力のギャップ

生物多様性損失の間接要因、社会変革の規定要因と 2050年生物多様性ビジョン達成に向けた選択肢に関するテーマ別評価 (社会変革評価) スコーピング文書 《2024-2025年頃発表見込み》

- 2050年生物多様性ビジョン達成に向けた社会変革の必要性和可能性に対するセクター横断的な評価
 - 生物多様性への直接要因(陸域・海域海利用、生物の直接利用、気候変動、汚染、外来種など)に影響を与える間接要因(生産と消費、人口動態、貿易、技術革新、ガバナンスなど)の重要性の考慮
 - チャプタ構成 
 - 争点
 - ◆ 社会変革と"transition"やBaU、何が違う？
 - ◆ ネクサス評価との重複の回避、価値概念化評価やその他のIPBES評価報告書との関係
 - ◆ 社会変革と間接要因の扱い
 - ◆ 地域や各国の発展段階に応じた差の考慮
 - ◆ 多様な主体の参加
 - ◆ 具体事例の提示
1. 社会変革と持続可能な世界
 2. 自然と人が持続可能な世界のビジョン
 3. 社会変革はどのように起こるのか
 4. 持続可能な世界に向けた社会変革実現の障壁とその解決方法
 5. 自然と人が持続可能な世界の実現に向けて：各主体のとりうる戦略、行動と役割

生物多様性と気候変動の相互関係とIPCCとの連携

- IPCCとIPBESとの連携の促進について、共同評価報告書、共催ワークショップ、リエゾングループ設置等が挙げられている。協働の内容やプロセスをIPBESとIPCCの事務局にて次回総会まで検討を継続する。
- 主な論点：検討に際しては、それぞれのマンデートを尊重し、双方の活動計画、協同して取り組む内容、実施における手続きや透明性、説明責任、政府代表の参加基準を明確にすることが求められる。
- 日本は、生物多様性と気候変動の関連性を重視する観点から、連携の促進自体は歓迎。今年6月に発表されたIPBES-IPCC合同ワークショップ報告書の内容とその活用を確認したうえで、今後の具体的な検討に入っていく旨提案した。

能力養成、知識基盤強化と政策支援

- 決議概要：IPBESの5つのタスクフォース（能力構築、知識とデータ、先住民と地域社会の知識、政策支援、及びシナリオとモデル）の2021年－2022年における暫定作業計画承認。2022-2023年についてはIPBES-9にて審議。
- 主なポイント：
 - 若手研究者、実務者などのIPBESプロセスへの参画を促す取り組み促進、先住民や地域社会の参画を促進するためのサポート拡充等が盛り込まれた。
 - シナリオとモデルに関し、Nature Future Framework(NFF)をIPBESの公式なツールとして承認するか、今後の取り扱いにつきIPBES-9にて議論されることになった。NFFへのサポートを求めるタスクフォース及び支持を示す意見と、より時間をかけて議論すべきとの主張がともに複数挙げられた。

生物多様性と気候変動に関するIPBES-IPCC合同ワークショップ報告書の概要

- 「生物多様性と気候変動に関するIPBES-IPCC合同ワークショップ」の成果(2021年6月公表)※
- 2020年12月14~17日にオンライン開催、IPBESとIPCCによる科学運営委員会が選定したIPBESとIPCCからそれぞれ25名、計50名の専門家が参加 **(日本からは計3名の専門家参加)**

※科学的査読を経たものではあるが、IPBES公式のレビュープロセスは経ておらず、IPBES総会の承認は得られていない

WS議題

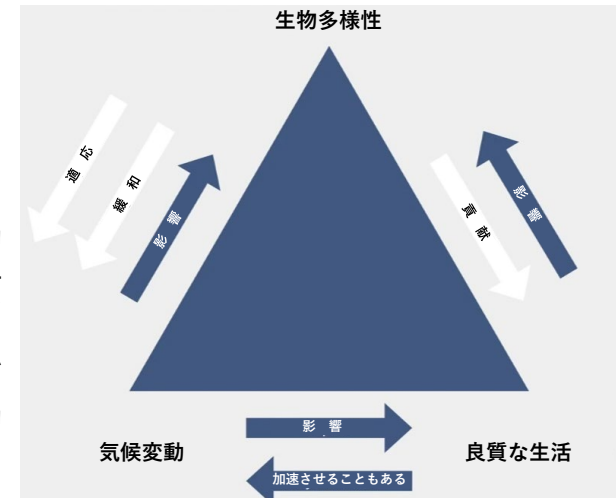
1. 気候変動と生物多様性の相互関係と今後の人間社会への示唆
2. 気候変動下の生物多様性保全
3. 気候変動緩和策が生物多様性に与える影響
4. 生物多様性と気候変動適応
5. 生物多様性保全策が気候変動に与える影響
6. 生物多様性、気候と人間社会の相互作用、境界としきい値
7. 気候-生物多様性-人間社会ネクサスの対策

キーマッセージ

- 地球上の**気候と生物多様性の間には複雑な相互作用**があり、人間社会に大きく影響する。これらを切り離して別々に制御できない。
- 人間活動と気候変動の生物多様性への影響**が増大、自然と自然の恵みを損なっている～水産資源の枯渇、早魃、熱波、森林火災等。
- 気候変動影響と生物多様性の損失は、現代の生態系と人間社会への**深刻な脅威**～生物の分布変化、森林炭素貯蔵の減少等。
- 気候変動緩和策**には、生物多様性に貢献するものもあれば損なうものもある～例：マングローブ保全vs. バイオ燃料作物の大規模栽培
- 生物多様性は、人や生態系が**気候変動に適応**する助けになる。生物多様性損失を防止、抑制または反転させる対策は気候変動適応に貢献する。～30-50%の陸域・海域生態系の効果的な保全
- 気候、生物多様性と人間社会を一体的なシステムとして扱う**ことが効果的な政策の鍵。ランドスケープ、都市や農山漁村地域での生物多様性保全と気候変動対策の統合が有効。
- あらゆる部門の野心的な排出削減と**自然を活用した解決策**の親和性。
- 社会生態系における**ガバナンスの革新**が、気候と生物多様性のレジリエンス(回復力)がある将来の発展経路を導く。



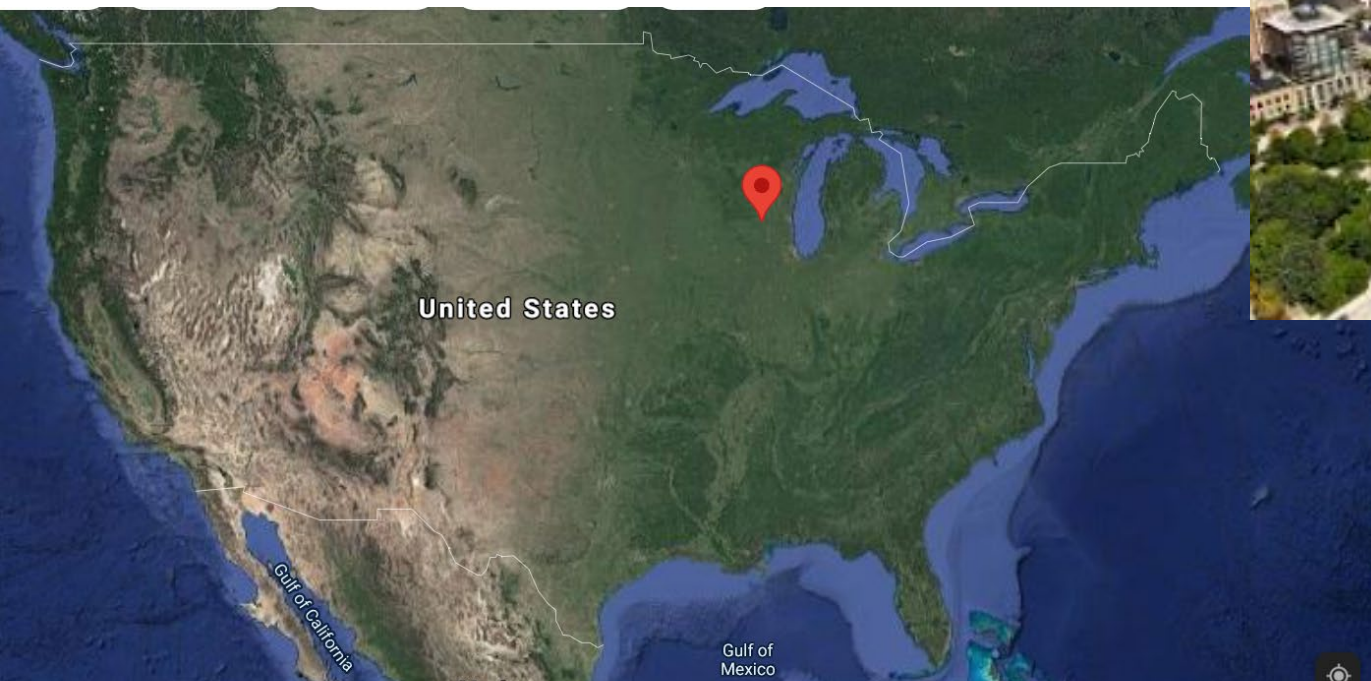
報告書(24頁, 英語)



出典：IPBES and IPCC (2021) Scientific Outcome of the IPBES-IPCC co-sponsored workshop on biodiversity and climate change. p4

次回総会の日程と開催国

- IPBES-9：現在のところ招致国は無い。今後申し出がない場合は、IPBES事務局の所在地ドイツ・ボンにて開催。
- IPBES-10：米国ウィスコンシン州マディソンにて2023年4月下旬~5月上旬開催予定



ご清聴ありがとうございました

もっと知りたい方は・・・

◆ IPBES成果の解説資料

<https://www.iges.or.jp/jp/projects/ipbes/results>



◆ IPBES特集ページ

<https://www.iges.or.jp/jp/projects/ipbes>

